

- 黒い世界に入りこんだみさき。
- 自分の家の中も黒かった。
- 何もかも黒いと思っていたみさき
- 外に出て、下を見て、おどろいた。
- 何と、自分のかげに色がついていたのだ。
- こ、これは、もしかして。
- みさきは自分の手を見た。真っ黒だ。
- 「あのドアで入れかわったのは、私のかげ？」
- 色のついたみさきのかげは・・笑っていた。
- そのとたん、みさきの体はぐいっと前に進む。
- みさきの意思とは関係なしに。
- 「な、な、何よこれ、どうして体が・・はっ」
- 「そうだ、私はかげなんだ」
- かげは、ただついていくことしかできない。
- そのまま、真っ黒なみさきのかげについていく
- しばらくすると、みさきはドアがたくさんある
- 場所についた。
- ドアの前には、たくさんの黒い人が今か今かと
- ドアが開くのを待っている。
- そこまで来ると、みさきはようやく自由に動けた。
- 下の色のついたみさきは、ドアを指さしている
- 「ここで待て、ということかしら？」
- 色のついたみさきは、満足そうにうなづくど、
- どこかへ行ってしまった。
- ここで一体何を待てばいいのよ！とみさきかも
- んくを行っているると、ドアが開いた。

問い 1 ドアを開いて入れ代わったのはみさきの

問い 2 ドアのたくさんある場所につれていかれた
（ ）

みさき、そこにはたくさんのが、
（ ）
が、ドアが開くのを待っていた。